

4-4. 対策実施の効果について

年超過確率1/10の降雨に対して、本計画により予定している規模のハード対策を実施する前後の内水浸水想定区域とその浸水想定深を解析によりシミュレーションした結果を図4-35に示す。床上浸水は解消される効果が見込まれる。

※年超過確率1/10の降雨：

筑後川本川の水位（外水位）が高く、外水位が水門閉鎖水位を上回っている時間帯（支川の水が、本川に自然排水できず、支川流域に湛水すると考えられる時間帯）における降雨量を確率計算し、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/10（10%）となる降雨。

※シミュレーションの条件について：

土地の高さや土地の利用状況は、対策実施前後も、現況（対策実施前）を条件としている。また、効果算定にあたっては、10m四方の土地の平均高さとしシミュレーションにより求まる浸水高さより浸水深を求め、浸水深が45cm以上であれば床上浸水、45cm未満であれば床下浸水と判定し、効果を想定したものであるが、今後の土地利用状況等の変化によって変わる可能性がある。

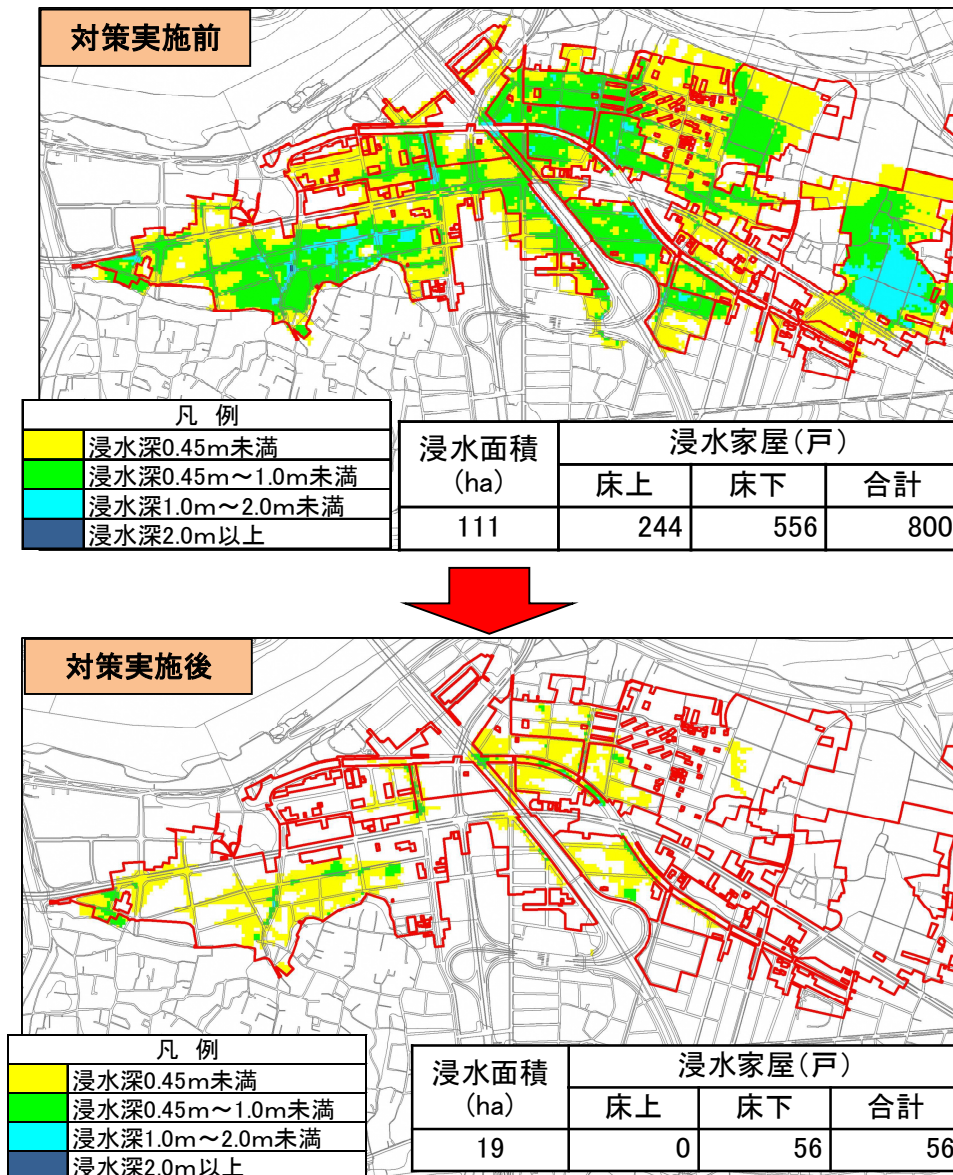


図 4-35 対策実施の効果(浸水深)